

本年4月から電力小売りの自由化が始まりました

本年4月から電力小売りの自由化がスタートしました。全国10社の大手電力地域独占体制が崩れ、8兆円の家庭向け電力市場が開放されました。首都圏や関西では、東京ガス・JXエネルギー・昭和シェル石油・東燃ゼネラル・ソフトバンクなどが新規参入し、全国6200万世帯の1%60万世帯ほどが新規契約を交わしたとみられます。

電力小売り自由化に伴い、環境に優しい太陽光・風力など再生可能エネルギーを主体とする新電力への期待が高まっていますが、4月時点では「みんな電力(東京都)・みやまスマートエネルギー(福岡県)・Loop(東京都)・SBパワー(東京都)」の4社にとどまっています。年内にはさらに3社が再生エネルギーを中心に販売開始する予定です。

再生可能エネルギー先進圏の欧州では1987年欧州委員会が電力自由化の方針を打ち出し、1991年ノルウエーで、1998年ドイツで自由化が実施されました。ドイツでは今1000を超える電力会社が存在し、「シェーナウ電力」のように市民参加型で原発・石炭火力フリーのエコ電力を供給する会社が奮闘しています。

先進地欧州の現状や日本の電力小売自由化の今後について、ふたたび浦井彰さんに語ってもらいます。

学習会「電力小売り自由化で社会がどう変わる…？」

とき 6月5日(日)午前10時～12時

ところ 仙台市市民活動サポートセンターセミナーホール

講師 エネシフみやぎ代表 浦井 彰さん

講師の浦井彰さんはNPO法人環境エネルギー政策研究所(ISEP)に勤務しています。

仙台市市民活動サポートセンター＝仙台市青葉区一番町4丁目1-3、電話212-3010

主催〉NPOきらきら発電・市民共同発電所 電話FAX＝379-3777 参加費は無料

